



「穏やかな水面に雲が映り、心地よい秋風が…」と言えるようにこの暑さが収まることを願うこの頃です。気温は真夏並みですが、元気なツクツクボウシに混じってコオロギの聲が聞こえるようになり、ウスバキトンボが姿を見せ、秋のキノコが林の縁を彩っています。目に映るのは秋の生き物に替わってきました。



マルモンツチスガリ

体長 10 ミリくらい。オオイヌタデの花に来ていました。スガリとはジガバチのことを言います。コハナバチなどを狩り、地中に営む巣に運び幼虫の餌とします。



マダラバッタ

草地の周辺で歩いていると飛び出すのはたいていこのマダラバッタです。後脚の脛は 3 色のまだら模様です。



左;ネコハギ

右;アレチヌスビトハギ

ネコハギは地表を這い、花の柄は短く全体に柔らかい毛が生えています。アレチヌスビトハギは北米原産で、種が服に付くのでひつつき虫と呼ばれます。



ニオイワチチタケ

道沿いの斜面からカレーのようなおいがしてきました。傘の直径は大きくても 5 センチくらいで、裏返したらひだから薄い白濁液を分泌していました。



ヤグラタケ

櫓を建てるように茸の上に生える茸で、ベニタケ科のクロハツモドキの上で毎年のように見られます。白色から黄褐色に変わっていきます。



ヒバカリ幼体

15 センチくらいで、この夏に生まれた個体です。捕虫網ですくうと体を丸めてしまいました。毒は無く、黄色い模様が首から顎に沿って見られます。



イヌタデ

道端で花が終わった後も赤い色が目立ちます。薄桃色に見えるのは萼片で花が終わっても紅色のままで残っています。黒い実が熟すと、萼ごと落ちてしまいます。



キイロイグチ

雑木林で育つ鮮やかなレモン色の茸ですが、傘の裏は傷をつけると青く変色します。傘の裏は時がたつと褐色に変わっていきます。



シロオニタケ

傘が開いて高さは 20 ㌢くらいありました。林下のやや薄暗い所にあってもよく目立ちました。植物の根と菌根を作り、木の生長に役立ちます。



キンケハラナガツチバチ

触角が長い雄で、活発に動いていました。雌は土中に住むコガネムシ類の幼虫を探して土に潜り、針で麻酔した後卵を産み付けます。



センニンソウ

つる性の植物で、白い花（花弁は無く萼片）をたくさんつけるので花期には目立つ存在です。種には白く長い毛が密生します。



ツヤアオカメムシ幼虫

中齢までは黒く、終齢になると成虫のような緑色になってくるようです。



植物 オオイヌタデ、ツクサ、ワレモコウ終わり、メマツヨイグサ、オオブタクサ、タカサゴユリ実、オオニシキソウ、ヒヨドリバナ、ダンドボロギク、コセンダングサ、イノコヅチ、オニタビラコ、イヌホオズキ、ヨウシュヤマゴボウ花と実、アレチヌスビトハギ、アキノノゲシ、タカサブロウ、イヌタデ、フユノハナワラビ、ヘクソカズラ、アオツツラフジ、クズ花香る、マメアサガオ、オニドコロ、ネコハギ、センニンソウ、ガガイモと実、アメリカノウゼンカズラ、サルスベリ、ヤマハギ、クサギ花終わり、木の実(イソノキ、サワフタギ、イロハモミジ、コナラ、シラカシ、ヤマハゼ、ゴンズイ、シャシャンボ、シイ等)、冬芽(ソメイヨシノ、コナラ、タブ)、**昆虫** キタキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、コムスジ、キマダラヒカゲ、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、アカボシゴマダラ、蛾(シロオビノメイガ)、バッタ類(ショウリョウバッタ、クルマバッタ、トノサマバッタ、マダラバッタ、コバネイナゴ、*セグロバッタ、ツチイナゴ幼虫、ホシササキリ、クビキリギス幼虫、ハラオカメコオロギ声、アオマツムシ声)、アオバハゴロモ幼虫、ツクツクボウシ声、ニイニイゼミ羽化殻、キマダラカメムシ、ツヤアオカメムシ2齢幼虫、トンボ(シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ、マユタテアカネ、クロイトトンボ)、甲虫(ハイイロチョッキリ産卵痕、ウリハムシ)、蜂類(キンケハラナガツチバチ、*マルモンツチスガリ、クロヤマアリ)、**蜘蛛** ジョロウグモ雌雄、チュウガタシロカネグモ、アシナガグモ、**鳥** スズメ、メジロ、キジバト飛ぶ、カワウ、カルガモ、**その他** アマガエル、アオコ、虫瘤(イスノキエダナガタマフシ)、茸(ニオイワチチタケ、ツルタケ、コテングタケモドキ、クロハツもどき、キイロイグチ、ヤグラタケ、ウラグロニガイグチ、ヘビキノコモドキ、ベニタケ類等)、* (観察会前に記録)

次回:10月10日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円